

いもう 葦毛通信



アサヒナカワトンボ

2022年4月19日
豊橋市文化財センター
豊橋市松葉町3丁目1
TEL: 0532-56-6060

No. 124

1、2022年度モニタリング報告ー1

今年は気温の低い日が続き春の訪れが遅くハルリンドウなどの春の花は2週間程度開花が遅れています。ハルリンドウは例年4月中旬頃に満開になりますが、今年は遅れています。開花数が最も多くなるころには、咲き終わって閉じた花の先端が膨れてきたものが見られますが今年はまだ見られず、これから咲くつぼみがまだ見られます。

4月23日(土)9時30分から、「春の葦毛湿原観察会」を開催しますが、この時あたりが満開になりそうです。ハルリンドウは太陽が昇ると開花し始め、昼前後に全開になり、午後3時頃には閉じ始め、4時頃には閉じてしまいます。毎日、開花と閉花を繰り返し、曇りの日には開花しません。

葦毛湿原は春になり様々な生物が見られるようになりました。植物だけでなく、昆虫や魚も動き始めました。

1) Q・R地点

⑥の旧水田では水中からはヒメガマが発芽し葉が伸びています。ヒメガマにはトンボの抜け殻も見られました。土手を中心にミゾソバも多く発芽し、様々な植物が発芽してきました。

4月初旬にはトンボの羽化も始まりました。4月7日にはシオヤト



R地点⑥旧水田(2022年4月17日)

ンボが10頭以上羽化しているのを確認しました。まだ翅が乾いていないようで、翅が白くなっており、近づいても逃げませんでした。抜け殻からうまく脱出できない個体や翅がまっすぐ伸びずにカナヘビに捕食されてしまった個体もありました。シオヤトンボは確認した7日より数日前から羽化が始まったようで、一週間程度で羽化は終わったようです。

⑥旧水田にはウシガエルの駆除を目的としてワナを仕掛けて経過観察していますが、混

獲された生物については葦毛通信 No. 121 で報告しました。冬の間は植物も枯れて無くなり、魚や昆虫等の動物もほとんど見られなくなりましたが、3月になってからは増えてきました。

これまでと同じように、ホトケドジョウ（県絶滅危惧ⅠB類）、カワムツ、ギンヤンマ等のトンボのヤゴ、ツチガエルのオタマジャクシ、モクズガニ等がワナに入っていました。ウシガエルは11月2日を最後にワナに入らなくなり、冬眠状態になっていたと思われませんが、3月15日にワナに入りました。春になって活動を再開したものと思われれます。

ウシガエルは大型の四角いワナに入り、小型の丸いワナには入らないことが分かったので、4月7日に撤去して大型のワナのみにししました。大型の四角いワナ3基は昨年の8月23日に設置したので、これからも経過を観察して一年間でどのくらいの効果があるかを報告するつもりです。

また、4月4日には⑥の旧水田におにぎり投げ入れられました。小さく3つにちぎって投げ入れられていましたが、池の中の生物の餌にするために投げ入れたと思われれます。

葦毛湿原ではこれまでにも、サギソウの球根が大量に投げ入れられたり、トキソウやハルリンドウが違法に採取されることが繰り返されています。何枚かの注意看板を現地に設置してい



ホトケドジョウ（県絶滅危惧ⅠB類）



カワムツ稚魚（コイ科）



ギンヤンマのヤゴ



羽化したシオヤトンボ

ふゆみず 冬水田んぼの再生！

葦毛湿原には江戸時代に造られた小規模で不整形の棚田（湿地中央部）と明治時代初めに造られ石垣で長方形に区画された大規模な水田（現在地）がありました。これらの水田は放棄されて草地や森になっていましたが、大規模植生回復作業を行い良好な湿地に戻す作業をしました。

大規模な水田跡地は、木を伐り抜根して畔を造り直して水が溜まるように復元しました。水のたまり方は様々ですが、目の前の池は冬でも水のある水田（冬水田んぼ）として復元しました。

冬水田んぼは雑草を減らし、土壌を豊かにする伝統農法で、水生生物や渡り鳥等の多様な生物に生息場所を与え、**生物多様性に有効**な農法とされています。

葦毛湿原では2021年3月に冬水田んぼを再生したところ、トンボを中心とした多くの水生昆虫や魚類等の様々な生物が見られるようになりました。

葦毛湿原は、**国指定天然記念物**です。葦毛湿原では生物を採取したり、他から持ち込んだりせず、植物や動物は静かに観察し、写真を撮るだけにしてください。葦毛湿原を良好な状態で次世代に引き継げるように、見守ってください。

特定外来生物（カダヤシ、アメリカザリガニ等）や金魚等の**飼育種**はもちろんです。が、**在来種**でも他地域の生物を入れると交雑して**雑種**ができて**葦毛湿原本来の種が失われてしまいます**。このような行為は行わないで下さい。

豊橋市教育委員会、豊橋市文化財センター

(☎0532-56-6060) 2022年4月11日



ギンヤンマ

アサヒナカワトンボ



羽化直後のシオヤトンボ



ホトケドジョウ（県絶滅危惧ⅠB類）



カワムツ

ますが、今回も「冬水たんぼの再生！」という注意看板（前頁写真）を現地に設置しました。

葦毛湿原では多様な環境を再生するために多様な環境を復元しています。一年中水がある田んぼは50年前には、葦毛湿原の北側を流れる朝倉川沿いにいくつも見られました。葦毛湿原周辺でも北約1kmにある鞍掛神社周辺には一年中水がある「深田」が広がっていたことを地元の方から聞いています。今回再生した⑥の旧水田は様々な生物が利用する貴重な生息地としての役割をしつつあると思います。

2) 動物の活動

去年は少なかったのですが、今年はイノシシの活動が活発なようです。湿原内のあちこちで地面を掘り返したかく乱跡が見られます。プラスとマイナスの両面の影響があると思われますので、今後観察して報告しようと思います。また、ニホンカモシカの食痕も見られます。これから様々な動物の活動が活発になる季節になります。



カモシカの食痕（2022年4月13日）



イノシシによるかく乱（2022年4月13日）